

ロータリー財団月間によせて

ロータリー財団委員会 委員長
溝畑 正信 (東大阪東RC)



今こそ財団を学ぶ時

今月はロータリー財団月間です。ロータリー財団月間である11月に、財団に焦点を当てた卓話やプログラムを是非行なって頂きたいと思います。

ウィルフリッドJ.ウィルキンソン 2012-13年度ロータリー財団管理委員長は財団目標を、

1. ポリオを撲滅する(End Polio Now)。
2. 未来の夢計画を整える。
3. 財団の教育的プログラムと人道的プログラムへの参加を通じて、世界に平和を育む。
4. ロータリー財団への寄付を全ロータリアンに願います。
5. 財団の資金をしっかりと守る。

としています。

*ポリオ撲滅に関して、私たちが知っておくべきことはなんですか？

今年の世界のポリオ発生件数、2012年9月25日現在、150件です。(昨年と同時期は400件、1年間の総発生件数は650件です)。

内訳はナイジェリア90件、パキスタン37件、アフガニスタン18件、チャド5件。インドは0件です。

25年間にわたる努力が実り、ロータリーと協同団体は、ポリオの撲滅にあと一歩というところまでたどり着きました。しかし、完全な撲滅を果たすには、今、すべての力を振り絞らなければなりません。私たちは、歴史的な機会を迎えています。

*「未来の夢計画」とは何であり、クラブにとって何を意味しますか？

2013-14年度から、未来の夢計画が世界中で導入されます。本年度は地区やクラブも、未来の夢計画に移行する計画年度です。

長い間、国際親善奨学生に代表される教育的プログラムがその主流でしたが、次第に人道的支援がロータリー財団の主流になってきました。

1965年から2000年までの35年間で1万件であったマッチング・グラントは、2000年から2004年の4年間で1万件を超えました。この人道的分野でのマッチング・グラントの爆発的成長は、ロータリー財団が取り組むべき問題点を浮き彫りにし、その長い歴史の中で最も革新的な変革「未来の夢計画」誕生の、一つの要因となりました。

少額プロジェクトの増加は、補助金を上回る経費とともに膨大な事務量を生じ、あふれる書類に、人的対応が追いつかなくなったのです。さらに、小さなプロジェクトでは、せっかくの奉仕も持続的効果が望めないなど、多くの問題点が指摘されました。

そこでロータリー財団は2005年、「Future Vision Plan-----未来の夢計画」委員会を発足させ、ロータリー財団100周年(2017年)を迎えた時、財団がいかにあるべきか、の検討を始めました。そのコンセプトは、
・プログラムと運営の簡素化
・ロータリー財団が自分たちの財団であることを自覚し、身近な存在とすること
・世界的目標と地元の目標の両方を果たすための資金を提供することなど、「素晴らしい財団」とするための骨格を決めました。

プログラムの簡素化には、6つの重点分野を設定しました。そしてプログラムを

1. 平和と紛争予防・紛争解決
 2. 疾病予防と治療
 3. 水と衛生
 4. 母子の健康
 5. 基本的教育と識字率向上
 6. 経済と地域社会の発展
- に集約したのです。

クラブと地区は、新地区補助金とグローバル補助金の2種類の補助金制度を通じて、地元や海外での奉仕活動のような人道的プロジェクト、また奨学金や職業